

Digital Performer 10.01 お読みください

Digital Performer 10.01をご使用いただきありがとうございます。

完全版DP10説明書

DP10インストーラーには、全てのDP10説明書（PDFファイル）が含まれています。これらのファイルは、Digital Performerアプリケーションのヘルプメニューからも直接アクセスすることができます。

変更点と新機能

新機能については、Digital Performerヘルプメニュー>Digital Performer 10の新機能をご覧ください。

バージョン10.01の変更

- ・トラックオーバービューワイパーのグリッド吸着機能のオン/オフ機能を追加しました。（環境設定>編集>トラックオーバービュー）
- ・コマンドキーを使用して、サウンドバイトドラッグ時のビートへの吸着機能のオン/オフを切り替えることができます。
- ・シフト-スペースキーを再度押して「コマンド実行」コマンドのキャンセルを可能にしました。この方法では、入力した検索条件の内容を次回の為に保持します。
- ・トラックレイアウトプリセット適用時に、プリセット作成時には存在しなかったトラックの表示を自動的に隠します。
- ・旧バージョンのDigital Performerファイルを保存すると、最新バージョンのフォーマットでファイルの保存を実行します。この際、代わりに「別名で保存」コマンドを使用することにより旧バージョンフォーマットのファイルの保存を行うことができるお知らせメッセージを表示します。
- ・オーディオメーターのポストパン表示機能を追加しました。（環境設定>再生と録音>オーディオオプション）
- ・最大バス数が1024に戻りました。
- ・Digital Performerへようこそウインドウ表示の問題を解決しました。コンピュータがネットワークに接続されていない場合、ビデオチュートリアルボタンは表示されません。
- ・トラックの表示順変更時のオーディオグリッチを軽減しました。

- ・VST2/VST3プラグインフォーマットへの値変換用のストリングを追加しました。
- ・AUプラグインのエフェクトオートメーションで、値変換用のストリングが用意されていないイベントのエディットは行うことができなくなりました。
- ・VST3のプロセッサ値が範囲外値になり得た問題を解決しました。
- ・VST2/VST3、及びAUプラグインフォーマットの認証ブロック問題を解決しました。
- ・VST3プラグインへ送信するオートメーションの送信方法を改良しました。
- ・「プラグインを適用…」ウインドウの表示問題（macOS 10.11のみ）を解決しました。
- ・VCAマスターがサラウンドアウトプットをコントロールできなかった問題を解決しました。
- ・再生時にVCAがコントロールするミュートされたトラックが歪む問題を解決しました。
- ・ビートディテクションアルゴリズムを改良してDPのクラッシュ問題を解決しました。
- ・非常に多くのトラックを含んだクリップウインドウの読み込み時間を改良しました。
- ・一時的なテイクトラックでクリップウインドウが表示されクリップの管理が行えていたバグを解決しました。
- ・トラックが表示されていないクリップウインドウにアイテムをドラッグした際のクラッシュを解決しました。
- ・コンソリデイトウインドウ外のクリップウインドウでトラックセレクタのスクロールバーをドラッグした際に起こり得たクラッシュ問題を解決しました。
- ・横方向にクリップウインドウをスクロールさせた際に起こり得た表示グリッチ問題を解決しました。
- ・クリップウインドウのトラックセレクタがある条件下において操作不能になり得た問題を解決しました。
- ・トラックセレクタが表示されたクリップウインドウをコンソリデイトウインドウに統合する際、トラックグリッドの幅が正しく表示されなかった問題を解決しました。
- ・チャンクリストで一つ、または複数のv-rackが再生選択されている場合、クリップウインドウのクリップに設定されたMIDIキーバインディングが機能しない問題解決しました。
- ・MIDIキーバインディングが設定されたクリップを含んだ複数のシーケンスがあるファイルを閉じる際に起こり得たクラッシュ問題を解決しました。
- ・ループ再生中のクリップでテンポチェンジを実行するとクリップ内のサウンドバイトのデュレーションが正しく再生されない問題を解決しました。
- ・ループが無効になっている状態のソースをコピー&ペーストでクリップを作成する

と、クリップのループが有効になってしまう問題を解決しました。

- ・クリップエディターの作業を取り消しにすると起き得ていたメモリーリークの問題を解決しました。

- ・クリップウィンドウでコピー&ペーストを実行すると「クリップをペースト」と共に作成される名称未設定のアンドゥヒストリー項目問題を解決しました。

- ・コンテンツブラウザのダブルクリックが正しく機能し得なかった問題を解決しました。

- ・コンテンツブラウザの前へ/後へボタンの問題を解決しました。

- ・非対称のクロスフェード問題を解決しました。

- ・フェードを含んだサウンドバイトの最後を削除した場合、フェードを保持します。この機能はDP9仕様に非常に近い結果を得られます。

- ・スプリット/インサートポイントが一つ、または複数のサウンドバイトと交差するポイントで「小節を挿入…」コマンドを実行した場合のクラッシュ問題を解決しました。

- ・クラッシュ問題を含む「スプリットノート…」コマンドの問題を解決しました。

- ・リージョンメニューウィンドウを含むDP 9、またはそれ以前で作成されたウィンドウセットを選択した際に起こり得たクラッシュ問題を解決しました。

- ・コンティニューアスデータでリージョンメニューウィンドウを開く際に起こり得たクラッシュ問題を解決しました。

- ・サウンドバイトパネルのクラッシュ問題を解決しました。

- ・クイックスクライブフォント問題（Windowsのみ）を解決しました。

- ・インサートエフェクトバージョンのグローヴクオンタイズでグローヴを選択する際に起こり得たクラッシュ問題を解決しました。

- ・クイックスクライブウィンドウで起こり得たトラックオプション変更時のクラッシュ問題を解決しました。

- ・長いシーケンスエディターフォルダ名の表示グリッチ問題を解決しました。

- ・マーカーウィンドウの表示問題を改良しました。

- ・トラックセレクトタに表示する10.2、及びその他のサラウンドサウンドラベルを追加しました。

- ・Nineテーマのトラックセレクトタにコンダクターアイコンを追加しました。

- ・None More Blackテーマの表示グリッチ問題を解決しました。

- ・トラックインスペクタボタンの表示問題を解決しました。

- ・バスやバーチャルインストルメントではなくハードウェアインプットを使用したインプットバンドルを含んだクリッピングファイルの読み込み時に、トラックのインプット設定が正しく実行されなかった問題を解決しました。

- ・Windowsの優先プラグインフォーマットの警告テキストを更新しました。

- ・全てのメーカーのAUフォーマットのプラグインでトラック（コンテキスト）名を設

定することができるようになりました。

- ・バックグラウンドでノートーションエディターが開いている場合、MIDIエディターでズーム変更すると起こり得たクラッシュ問題を解決しました。
- ・Final Cut Proの読み込みダイアログボックスのレイアウト問題を解決しました。
- ・AAF、またはOMF出力時に「全てのオーディオファイルの複製を作成」オプションを選択すると起こり得たクラッシュ問題を解決しました。

バージョン10.0の新機能

DP10の新機能については、Digital Performerヘルプメニュー>Digital Performer 10の新機能をご覧ください。

クリップウインドウ — クリップウインドウでは、ライブパフォーマンス中のオーディオ、及びMIDIクリップのトリガーを実行します。クリップエディターでは、クリップの作成、編集、表示を行います。

オーディオストレッチエディットレイヤー — シーケンスエディターとウェブフォームエディターにストレッチエディットレイヤーが追加されました。ストレッチエディットレイヤーでは、オーディオビートをストレッチすることによりそのタイミングを編集します。

ビートディテクションエンジン2.0 — ビートディテクションエンジンが新しくなりました。

ウェブフォームエディターの改良 — ウェブフォームエディターを改良し、より使いやすくなりました。

コンテンツブラウザ — コンテンツブラウザでは、Digital Performerのプロジェクトにドラッグ&ドロップできるアイテム（オーディオファイル、ループ、プラグイン、バーチャルインストルメント、クリッピング等）を表示します。

VCAトラック — クラシックなアナログコンソールをモデルにしたVCAトラックでは、複数のトラックの相対的レベルを一つのフェーダーでコントロールします。非常にフレキシブルなVCAトラックは、他のVCAトラックからコントロールしたり、VCAトラック内にサブグループを作成することも可能です。サブグループを作成した場合でもミックスオートメーションを正しく保持します。

VST3対応 — VST3プラグインとバーチャルインストルメントに対応しました。

MOTUインストルメントサウンドバンク — DP10には5.5 GBのマルチサンプルインストルメントライブラリー、シンセ、ループ、フレーズが付属します。（300種以上のインストルメント、1100インストルメントプリセット、500ループを含む）付属カテゴリー：アコースティック/エレクトリックドラムキット、ピアノ、ギター、ベース、チャーチオルガン、エレクトリックオルガン、弦楽器、金管楽器、木管楽器、シンセ、民族楽器、合唱、ボイス、打楽器、サウンドエフェクト等。

ユーザーインターフェイススケール — Digital Performerのユーザーインターフェイス全体表示（全てのウィンドウとテキストを含む）を拡大、及び縮小することができるようになりました。ハイレゾリューションのRetinaディスプレイでは特に便利な機能です。

コマンド実行ウィンドウ — シフト-スペースバー（または、セットアップメニュー > 「コマンド実行…」 コマンド）でコマンド実行ウィンドウを開きます。コマンド実行ウィンドウでは、コマンドライン形式のインターフェイスで必要なコマンドに迅速にアクセスします。この機能は、macOSのスポットライトやWindowsの検索機能によく似ています。この機能には、いくつかの設定項目があります。

クオンタイズ機能の改良 — MIDIノートのクオンタイズ時に、MIDIノートに付随したMIDIコントローラーデータの移動の有無を指定できるようになりました。また、サウンドバイトのプラグインオートメーションデータの移動の有無も同様に指定することができます。

グループクオンタイズの改良 — 前述の「クオンタイズ…」 コマンドと同様に「グループクオンタイズ…」 コマンドでも、MIDIコントローラーデータとオーディオオートメーションデータの移動の有無を指定できるようになりました。

オルタネートツール — 作業効率を高める為、メインツールに加えてオルタネートツールをご用意しました。

絶対vs.相対グリッドスナッピング — グリッドに吸着機能（スナップ情報ウィンドウ）の初期設定では、データをタイムライン（絶対値）に吸着します。これに対し、相対スナップチェックボックスを選択すると、データのオリジナル位置間隔を保持したままデータの吸着を実行します。

グリッドに吸着機能のオートモード — グリッドに吸着機能に2つのモードを追加しました。固定値モードでは、グリッドのサイズを指定します。オートモードでは、作業中のエディットウィンドウのズームレベルを考慮してDPが適したグリッドサイズを決定します。

トランスポートキューイングの移動間隔 — Digital Performerのメイントランスポートコントロールにあるキューボタン（早送り/巻き戻し）の移動間隔を設定することができるようになりました。例えば、低速早送り/巻き戻しボタンを1小節に、早送り/巻き戻しボタンを4小節に設定することができます。設定単位には、ビート、ティック、フレーム、秒等を使用することができます。

リージョンコマンドプリセット — リージョンメニューのコマンド（クオンタイズ、トランスポーズ、デュレーションを変更、スプリットノート）でプリセットを作成できるようになりました。

イベントリスト”クイック”フィルター — イベントリストの上部にクイックフィルターセクションを設け、イベントリストに表示したくないデータの種類を簡単に指定できるようになりました。

シーケンスエディターのエフェクトインサート — シーケンスエディターのトラック設定パネルの横にエフェクトインサートの表示パネルを追加しました。

トラック表示の改良 — トラックリストで複数のトラックを選択し、上下にドラッグ移動することが可能になりました。

MIDIコントローラーデータのオーバーダブ — MIDIコントローラーデータのオーバーダブ時、トラックのオートメーションモード設定（タッチ、ラッチ等）に応じて新しいデータを古いデータの上に上書きできるようになりました。

トラックデータクリッピングの改良 — トラックデータを含むクリッピングをトラックリスト、トラックオーバービュー、シーケンスエディターへドラッグ&ドロップ可能になりました。ドラッグ&ドロップ時には、1オペレーションで新規トラックを作成し、タイムラインの任意の位置へドロップすることができます。また、クリッピング内の複数のトラック間のバス設定も保持します。

ズームメニューの統合 — シーケンスエディター、ドラムエディター、MIDIエディター、ウェーブフォームエディターのズームコマンドを、表示メニューの「ズーム」コマンドに統合しました。

サウンドバイトドラッグの改良 — シーケンスエディターでサウンドバイトをドラッグ移動する際、サウンドバイトの外枠だけではなくウェーブフォームも表示したまま移動できるようになりました。また、新しい位置情報やオフセット、スタートタイム、エンドタイム等を示した情報タブも併せて表示します。

MIDIノート表示設定 — 環境設定のMIDI編集に新しい設定事項を追加しました。グラフィックエディターのノートグリッドに表示するMIDIノート内にノートナンバーやオンベロシティバーを表示することができます。

ドラッグのキャンセル — エスケープキーを押して、ドラッグのキャンセルを行うことができるようになりました。

フォーカスセル — コンソリデイトウインドウ内のセルのタイトルバーをクリックすると、セル枠を強調表示にし、そのセルがフォーカスセル（現在作業中のセル）になっていることを示します。

バイトゲインフェーダー — シーケンスエディターでオーディオトラックを縦方向に十分にリサイズした場合、サウンドバイトの左下隅にバイトゲインの設定、及びフェーダーを表示します。

プレイバックワイパーのグリッド吸着 — プレイバックワイパードラッグ時に、プレイバックワイパーをグリッドに吸着する機能を追加しました。

Digital Performer 10をお楽しみください！

Sincerely,

The Digital Performer Development Team
www.motu.com/techsupport

www.motu.com/suggestions

©2019 MOTU, Inc.